



外貨を持つリスク 持たないリスク

永井通信
☆第24号☆

株式会社東海保険 TEL 0564-27-2533 携帯 080-6903-3880

こんにちは！株式会社東海保険の永井です。いつもお世話になっております。さて、今回のテーマは『外貨保有』についてです。すでにお持ちの方もいるのではないのでしょうか。しかし、なじみの無い方にとっては怖いもの、損するものというイメージがあるかもしれません。「怖い」という感情は「知らない」ことから来ることが多いものです。少しずつ紐解いていきましょう。

★外貨を持つにはリスクがあります。

しかし、反対に持つメリットもあります。さらには持たないリスクもあるのです。

★米ドルの信用力

外貨保有における第一選択肢は米ドルが一般的です。世界における米ドルの信用力はどれほどなのでしょうが

- ・世界の基軸通貨であり、各国の外貨準備高の60%が米ドル。(ユーロは22%、日本円は4%)
- ・日本でも対外国貿易での決済通貨のうち75%が米ドルを使用。

★世界における日本の状況と今後の見通し

- ・日銀による異次元緩和で国債を日銀が購入⇒円が市場に出回る⇒円安傾向へ
- ・インフレ政策(デフレ対策)の実施⇒物価が上がると円の価値が下がる⇒円安傾向へ
- ・米国の利上げがある⇒米ドルが買われると相対的に円の価値が下がる⇒円安傾向へ
- ・少子高齢社会⇒人口減、国力の低下は円の価値を下げる⇒円安傾向へ (米国、豪州などは人口増加傾向)

★日本は資源を輸入に頼る国

- ・エネルギー自給率：6% (米84%、独39%、英61%、豪247%)
- ・食料自給率：39% (米127%、独92%、英72%、豪205%)

輸入依存度が高い商品は円安になると仕入れ値があがるので値段があがります。

★まとめ

上記から「円安」と「インフレ」というキーワードが出てきます。適度のインフレは経済が回る上でいい状況と言えますが、この仕組みを理解していないと資産価値を減らしてしまいます。例えば20年間、毎年2%のインフレが起きたとします。すると現在の1,000万円では673万円分のものでしか購入できなくなります。インフレが続く時代は物の価値が上がりお金の価値が下がります。なのでせめて物価上昇率と同等程度の運用をし、資産を増やしておかないと買いたいものが買えなくなります。そして、人口減は日本の経済力に大きな影響を及ぼします。経済発展のしにくい環境下ではやはり運用もしにくくなるのです。

※本通信を今後要らない方は、お手数ですが私までお申し付けください。よろしくお願ひします。

ホームページをリニューアルしました。バックナンバーも公開中！ ⇒ 『東海保険』で検索



信用ってなんだろう



★用語メモ

○外貨準備(高)

通貨危機などで他国に対して外貨建て債務の返済が困難になった時に、通貨当局が為替介入に使用する原資として使用するほか、国が輸入代金の決済や、借金の返済などの対外支払にあてるために持つ公的な準備資産のこと。また災害が起こったときには被災国の貨幣は信用力が落ちるため下落します。そういった時の支払いにも使われます。

○決済通貨

貿易取引において、どの通貨にするかは当事者間の合意によります。一般的に国際間の信用度の高い通貨が使用されます。

★外貨を持つとインフレ対策になる？

輸入依存度が高い日本が円安になると物価があがります。ということは物価が上がる時は円安になっている傾向があります。円安期は円建資産は価値が目減りしています。ここで外貨建資産をもっていれば日本国内での外貨建資産の価値は相対的にあがります。円安期でもバランスが取れるようになるのです。

★日本の年金の運用先はどこ？

独立行政法人GPIFが管理運用しています。H25年頃から外国債券株式の運用資産配分を23%⇒40%へ増やしています。守る投資の代表格であるGPIFが安心確実に運用するには円(国内)運用だけでは守り切れないというメッセージなのではないでしょうか？

発行者プロフィール

名前：永井 教盟 (ながい のりちか)
 誕生日：昭和54年12月23日 出身地：幡豆
 趣味：読書(最近メンタリストDaiGoが面白い！)
 経歴：2008年12月、保険業界へ転職
 資格：生保協会認定FP LCQS協会認定証券診断士
 : 相続診断士 住宅ローンアドバイザー

生命保険かけこみ相談室(080-6903-3880)

○義理、人情、プレゼントで保険加入してはいけません。
 ○夫の保険金額は夫が決めてはいけません。
 ○妻の生命保険を夫が支払ってはいけません。
 ○相続対策では親の生命保険は子が支払う。
 ○相続対策では子の医療保険は親が支払う。
 そのお悩み解決できます！ p(^.^)q